

現 行	改正案	備 考
<p data-bbox="409 583 1015 646">給水装置工事施行基準</p> <p data-bbox="599 865 825 919">2011</p> <p data-bbox="569 940 854 982">(2018.9 改正版)</p> <p data-bbox="439 1780 985 1831">鹿児島市水道局</p>	<p data-bbox="1626 583 2231 646">給水装置工事施行基準</p> <p data-bbox="1816 865 2041 919">2011</p> <p data-bbox="1786 940 2071 982">(2019.6 改正版)</p> <p data-bbox="1638 1780 2184 1831">鹿児島市水道局</p>	<p data-bbox="2546 1012 2766 1096">【表紙】 改正年月を変更。</p>

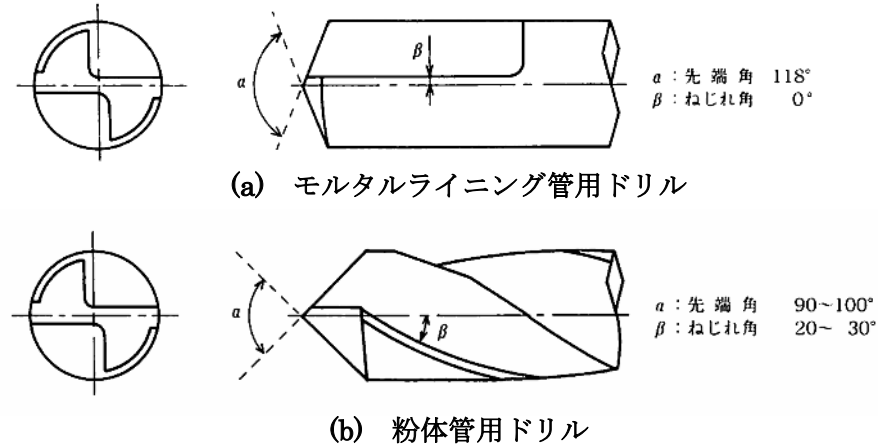


図 3 - 53 穿孔ドリルの種類

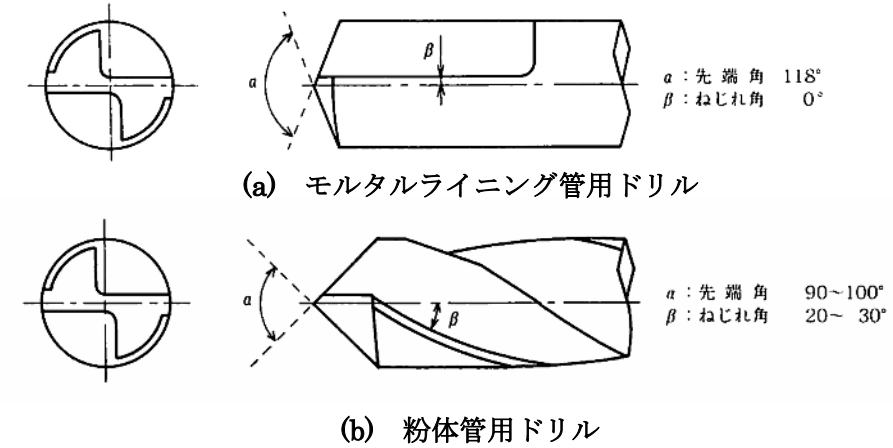


図 3 - 53 穿孔ドリルの種類

表 3 - 16 給水管の取出し一覧表

分岐口径 (mm)	配水管口径 (mm)						
	20	25	40	50	75	100	150
配水管種別							
鑄鉄管	50						
	75						
ダクタイル鑄鉄管	100	サドル付					
	150						
	200	分水栓					
	250						
	300						
硬質塩化ビニル管 (VPのみ)	30						
	40						
亜鉛メッキ鋼管	50	サドル付					
硬質塩化ビニルライニング鋼管	75	分水栓					
	100						
ポリエチレン粉体ライニング鋼管	150						
	150						
水道配水用ポリエチレン管	50	サドル付分水栓					

(注) 分岐口径 40 mm 及び 50 mm (配水管口径 75 mm 以上) で、埋設物等により不断水割 T 字管の施工が困難な場合に限り、サドル付分水栓を使用できる。

表 3 - 16 給水管の取出し一覧表

分岐口径 (mm)	配水管口径 (mm)						
	20	25	40	50	75	100	150
配水管種別							
鑄鉄管	50						
	75						
	100	サドル付					
	150						
	200	分水栓					
	250						
硬質塩化ビニル管 (VPのみ)	30						
	40						
亜鉛メッキ鋼管	50	サドル付					
硬質塩化ビニルライニング鋼管	75	分水栓					
	100						
ポリエチレン粉体ライニング鋼管	150						
	150						
水道配水用ポリエチレン管	50	サドル付分水栓					

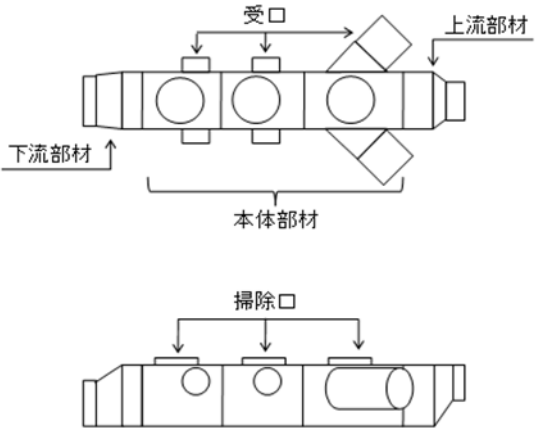
(注 1) 分岐口径 40 mm 及び 50 mm (配水管口径 75 mm 以上) で、埋設物等により不断水割 T 字管の施工が困難な場合に限り、サドル付分水栓を使用できる。

(注 2) 水道配水用ポリエチレン管からの分岐口径 40 mm で、埋設物等により不断水割 T 字管の施工が困難な場合に限り、サドル付分水栓を使用できる。

(注 3) ただし、上記条件については、サドル付分水栓の最上部から 60 cm 以上、土被りが確保できる場合に限る。

局指定給水装置として、水道配水ポリエチレン管用サドル付分水栓 50×40 の使用を承認したことに伴う文言の追記。

現 行	改正案	備 考
<p data-bbox="409 583 1015 646">排水設備工事施行基準</p> <p data-bbox="599 865 825 919">2011</p> <p data-bbox="569 940 854 982">(2018.9 改正版)</p> <p data-bbox="439 1780 985 1831">鹿児島市水道局</p>	<p data-bbox="1608 583 2214 646">排水設備工事施行基準</p> <p data-bbox="1798 865 2024 919">2011</p> <p data-bbox="1768 940 2053 982">(2019.6 改正版)</p> <p data-bbox="1638 1780 2184 1831">鹿児島市水道局</p>	<p data-bbox="2528 1054 2754 1138">【表紙】 改正年月を変更。</p>

現 行	改正案	備 考
<p>15 床下集合排水システム（排水ヘッダー）</p> <p>床下集合排水システムは、各衛生器具からの排水を1階床下に設置した排水ますに合流させた後に1本の排水管により屋外排水設備に接続する排水システムである。当該システムは、資材製造会社が排水システムとして供給しているものであり、継手等の組み合わせによる配管はこれに含まない。ここに示す排水ますとは、本体部材・下流部材・上流部材等によって構成されたものをいう（図3-49）。</p> <p>施工は、指定排水工事業者が行い、使用にあたっては、各資材製造会社が定める製品の仕様及びその機能について十分理解するとともに以下の事項を遵守して維持管理上の問題が生じないように努めること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 排水ますの設置箇所は1階床下とし、維持管理の空間（周囲に450mm以上）を確保すること。 排水ますを維持管理するための点検口を設けること。 通気管を設け、大気中に開口することを原則とする。ただし、建物の構造上困難な場合は、一部の通気管の端部に通気弁の設置を認める。 排水ますに接続できる枝管の最大口径は、75mmであるため、器具排水管の長さが3mを超える大便器は排水ますの枝管に接続してはならない。この場合は、器具排水管を100mmで施工すると共に掃除口を設け、排水ますの下流側又は上流側に接続すること。 排水ますが沈下しないよう専用の支持金具を使用し、勾配を確保するとともに確実に支持・固定すること。 排水ますは、全面が目視できるように設置し、コンクリート基礎等に埋め込まないこと。 排水ますの下流側の流出口径は、原則として100mmとする。 建物の基礎を貫通する場合、原則として専用の貫通資材を使用すること。専用資材が使用できない場合は、配管の屈曲部に45°エルボを使用して屋外排水設備に接続すること。  <p>図3-49 排水ます</p>	<p>15 床下集合排水システム（排水ヘッダー）</p> <p>床下集合排水システムは、各衛生器具からの排水を1階床下に設置した排水ヘッダーに合流させた後に1本の排水管により屋外排水設備に接続する排水システムである。当該システムは、資材製造会社が排水システムとして供給しているものであり、継手等の組み合わせによる配管はこれに含まない。ここに示す排水ヘッダーとは、本体部材・下流部材・上流部材等によって構成されたものをいう（図3-49）。</p> <p>施工は、指定排水工事業者が行い、使用にあたっては、各資材製造会社が定める製品の仕様及びその機能について十分理解するとともに以下の事項を遵守して維持管理上の問題が生じないように努めること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 排水ヘッダーの設置箇所は1階床下とし、維持管理の空間（周囲に450mm以上）を確保すること。 排水ヘッダーを維持管理するための点検口を設けること。 排水ヘッダーからの通気管取り出しは、一戸建て住宅で1階の排水設備を排水ヘッダーに合流させ、汚水排水系統が大便器1器具である場合は不要とする。 排水ヘッダーに接続できる枝管の最大口径は、75mmであるため、器具排水管の長さが3mを超える大便器は排水ヘッダーの枝管に接続してはならない。この場合は、器具排水管を100mmで施工すると共に掃除口を設け、排水ヘッダーの下流側又は上流側に接続すること。 排水ヘッダーが沈下しないよう専用の支持金具を使用し、勾配を確保するとともに確実に支持・固定すること。 排水ヘッダーは、全面が目視できるように設置し、コンクリート基礎等に埋め込まないこと。 排水ヘッダーの下流側の流出口径は、原則として100mmとする。ただし、一戸建て住宅で1階の雑排水系統のみを排水ヘッダーに合流させる場合の流出口径は、75mmでも可とする。 建物の基礎を貫通する場合、原則として専用の貫通資材を使用すること。専用資材が使用できない場合は、配管の屈曲部に45°エルボを使用して屋外排水設備に接続すること。  <p>図3-49 排水ヘッダー</p>	<p>「排水ます」の表記を「排水ヘッダー」に修正。</p> <p>排水ヘッダーからの通気管取り出しの改正に伴う文言の追記、修正。</p> <p>排水ヘッダーの下流側の流出口径について、一定の条件下に限り75mmの使用を可とするただし書きの追記。</p>

現 行	改正案	備 考
<p style="text-align: right;">資料 4</p> <p style="text-align: center;">グリース阻集器の選定</p> <p>グリース阻集器の選定にあたっては、空気調和・衛生工学会規格 SHASE-S217-2008 を参考にして示す。</p> <p>1 用語の意味</p> <p>(1) グリース阻集器 グリース阻集器とは、厨房その他の調理場からの排水に含まれる油脂分を阻止、分離及び収集するための装置である。</p> <p>(2) 工場製造グリース阻集器 工場製造グリース阻集器とは、本体内部にグリースの阻集に有効な隔板を設けた実容量が 1000ℓ 以下の阻集器で、製造会社によって工場で作成される阻集器をいう（以下、工場製造阻集器という）。</p> <p>(3) 現場施工グリース阻集器 現場施工グリース阻集器とは、建築現場で施工製作される阻集器で、その実容量が 500ℓ を超え、1000ℓ 以下のものをいう（以下、現場施工阻集器という）。</p> <p>2 工場製造阻集器の選定基準</p> <p>2.1 店舗全面積に基づく選定方法</p> <p>(1) 選定法 工場製造阻集器の選定は、以下の手順によって行う。</p> <p>ア (2)及び(3)に示す計算法によって、流入流量並びに阻集グリース及びたい積残さの質量を求める。</p> <p>イ 許容流入流量及び標準阻集グリースの質量が、アによって求めたそれぞれの値以上となる阻集器を選定する。</p> <p>(2) 流入流量の計算法 流入流量 Q は、式①によって求める。</p> $Q = A W_m \times \frac{n}{n_o} \times \frac{1}{t} k \dots \dots \dots \textcircled{1}$ <p>ここに、</p> <p>Q : 流入流量 [ℓ/min] A : 厨房を含む店舗全面積（以下、店舗全面積という）[㎡] W_m : 店舗全面積 1 ㎡・1 日あたりの使用水量（標準値を表-1 に示す）[ℓ(㎡・日)] n : 回転数 [1 席・1 日あたりの利用人数]（受渡し当事者間の打合せによる。標準値を表-2 に示す）[人/(席・日)] n_o : 補正回転数（標準値を表-3 に示す）[人/(席・日)] t : 1 日あたりの厨房使用時間（標準値を表-1 に示す）[min/日]</p> <p style="text-align: center;">参-7</p>	<p style="text-align: right;">資料 4</p> <p style="text-align: center;">グリース阻集器の選定</p> <p>グリース阻集器の選定にあたっては、空気調和・衛生工学会規格 SHASE-S217-2016 を参考にして示す。</p> <p>1 用語の意味</p> <p>(1) グリース阻集器 グリース阻集器とは、厨房その他の調理場からの排水に含まれる油脂分（以下、グリースという）を密度差による自然浮上によって、阻止・分離及び収集するための装置（以下、阻集器という）である。</p> <p>(2) 工場製造グリース阻集器 工場製造グリース阻集器とは、本体内部にグリースの阻集に有効な隔板を設けた実容量が 1000ℓ 以下の阻集器で、製造会社によって工場で作成される阻集器をいう（以下、工場製造阻集器という）。</p> <p>(3) 現場施工グリース阻集器 現場施工グリース阻集器とは、内部にグリースの阻集に有効な隔壁を設けた建築現場で施工製作される阻集器で、その実容量が 500ℓ を超え、1000ℓ 以下のものをいう（以下、現場施工阻集器という）。</p> <p>2 工場製造阻集器の選定基準 阻集器の選定は、一般に店舗全面積に基づく選定方法を用いるが、利用人数が想定できる場合には、利用人数に基づく選定方法を用いてもよい。</p> <p>2.1 店舗全面積に基づく選定方法</p> <p>(1) 選定法 工場製造阻集器の選定は、以下の手順によって行う。</p> <p>ア (2)及び(3)に示す計算法によって、流入流量並びに阻集グリース及びたい積残さの質量を求める。</p> <p>イ 許容流入流量及び標準阻集グリースの質量が、アによって求めたそれぞれの値以上となる阻集器を選定する。</p> <p>(2) 流入流量の計算法 流入流量 Q は、式①によって求める。</p> $Q = A W_m \times \frac{n}{n_o} \times \frac{1}{t} k \dots \dots \dots \textcircled{1}$ <p>ここに、</p> <p>Q : 流入流量 [ℓ/min] A : 厨房を含む店舗全面積（以下、店舗全面積という）[㎡] W_m : 店舗全面積 1 ㎡・1 日あたりの使用水量（標準値を表-1 に示す）[ℓ(㎡・日)]</p> <p style="text-align: center;">参-7</p>	<p>空気調和・衛生工学会規格（SHASE）の改訂に伴う文言の追記、修正。</p>

現 行		備 考
<p>k : 危険率を用いて定めたときの流量の平均流量に対する倍率 (標準値を表-1に示す) [倍]</p> <p>(3) 阻集グリース及びたい積残さの質量の計算法 阻集グリース及びたい積残さの質量 G は、式②によって求める。</p> $G = G_u + G_b \quad \dots \dots \dots \textcircled{2}$ <p>ここに、</p> <p>G : 阻集グリース及びたい積残さの質量 [kg] G_u : 阻集グリースの質量 [kg] G_b : たい積残さの質量 [kg]</p> <p>ア 阻集グリースの質量 阻集グリースの質量は、式③によって求める。</p> $G_u = A g_u \times \frac{n}{n_o} \times i_u C_2 \quad \dots \dots \dots \textcircled{3}$ <p>ここに、</p> <p>G_u : 阻集グリースの質量 [kg] A : 店舗全面積 [m²] g_u : 店舗全面積 1 m²・1 日あたりの阻集グリースの質量 (標準値を表-1に示す) [g/(m²・日)] n : 回転数 [1 席・1 日あたりの利用人数] (受渡し当事者間の打合せによる。標準値を表-2に示す) [人/(席・日)] n_o : 補正回転数 (標準値を表-3に示す) [人/(席・日)] i_u : 阻集グリースの掃除周期 (受渡し当事者間の打合せによる) [日] C_2 : 定数 (=10⁻³) [kg/g]</p> <p>イ たい積残さの質量 たい積残さの質量は、式④によって求める。</p> $G_b = A g_b \times \frac{n}{n_o} \times i_b C_2 \quad \dots \dots \dots \textcircled{4}$ <p>ここに、</p> <p>G_b : たい積残さの質量 [kg] A : 店舗全面積 [m²] g_b : 店舗全面積 1 m²・1 日あたりのたい積残さの質量 (標準値を表-1に示す) [g/(m²・日)] n : 回転数 [1 席・1 日あたりの利用人数] (受渡し当事者間の打合せによる。標準値を表-2に示す) [人/(席・日)] n_o : 補正回転数 (標準値を表-3に示す) [人/(席・日)] i_b : たい積残さの掃除周期 (受渡し当事者間の打合せによる) [日] C_2 : 定数 (=10⁻³) [kg/g]</p>	<p>n : 回転数 [1 席・1 日あたりの利用人数] (標準値を表-2に示す。ただし、受渡当事者間の打合せによって定めてもよい) [人/(席・日)] n_o : 補正回転数 (標準値を表-3に示す) [人/(席・日)] t : 1 日あたりの厨房使用時間 (標準値を表-1に示す) [min/日] k : 危険率を用いて定めたときの流量の平均流量に対する倍率 (標準値を表-1に示す) [倍]</p> <p>(3) 阻集グリース及びたい積残さの質量の計算法 阻集グリース及びたい積残さの質量 G は、式②によって求める。</p> $G = G_u + G_b \quad \dots \dots \dots \textcircled{2}$ <p>ここに、</p> <p>G : 阻集グリース及びたい積残さの質量 [kg] G_u : 阻集グリースの質量 [kg] G_b : たい積残さの質量 [kg]</p> <p>ア 阻集グリースの質量 阻集グリースの質量は、式③によって求める。</p> $G_u = (1/1000) \times A g_u \times \frac{n}{n_o} \times i_u \quad \dots \dots \dots \textcircled{3}$ <p>ここに、</p> <p>G_u : 阻集グリースの質量 [kg] A : 店舗全面積 [m²] g_u : 店舗全面積 1 m²・1 日あたりの阻集グリースの質量 (標準値を表-1に示す) [g/(m²・日)] n : 回転数 [1 席・1 日あたりの利用人数] (受渡し当事者間の打合せによる。標準値を表-2に示す) [人/(席・日)] n_o : 補正回転数 (標準値を表-3に示す) [人/(席・日)] i_u : 阻集グリースの掃除周期 (受渡当事者間の打合せによる) [日] 1/1000 : G_u を求めるための単位の換算係数</p> <p>イ たい積残さの質量 たい積残さの質量は、式④によって求める。</p> $G_b = (1/1000) \times A g_b \times \frac{n}{n_o} \times i_b \quad \dots \dots \dots \textcircled{4}$ <p>ここに、</p> <p>G_b : たい積残さの質量 [kg] A : 店舗全面積 [m²] g_b : 店舗全面積 1 m²・1 日あたりのたい積残さの質量 (標準値を表-1に示す) [g/(m²・日)] n : 回転数 [1 席・1 日あたりの利用人数] (受渡し当事者間の打合せによる。標準値を表-2に示す) [人/(席・日)]</p>	<p>空気調和・衛生工学会規格 (SHASE) の改訂に伴う文言の追記、修正。</p>
参-8	参-8	

表-1 各因子の標準値

因 子		W_m	t	k	g_u	g_b
		店舗全面積1 ㎡・1日あたり の使用水量 [ℓ/(㎡・日)]	1日あたりの 厨房使用時 間 [min/日]	危険率を用い て定めたと きの流量の平 均流量に対 する倍率 [倍]	店舗全面積 1㎡・1日あ たりの阻集グ リースの質量 [g/(㎡・日)]	店舗全面積 1㎡・1日あ たりのたい積 残さの質量 [g/(㎡・日)]
営 業 用 厨 房	中国(中華)料理	130	720	3.5	18.0	8.0
	洋 食	95			9.0	3.5
	和 食	100			7.0	2.5
	ラ ー メ ン	150			19.5	7.5
	そば・うどん	150			9.0	3.0
	軽 食	90			6.0	2.0
	喫 茶	85			3.5	1.5
社員・従業員用厨房	90	600	6.5	3.0		
ファーストフード	20		3.0	1.0		

SHASE-S217-2008

注1) 1日あたりの使用時間が前もって分かっている場合は、その時間を1日あたりの厨房使用時間としてもよい。

注2) 上記以外の食種については、使用実態を予測し上記のいずれかに該当させ、選定を行う。

注3) 製造と販売のみの場合、Aの数値は厨房のみの面積とする。

注4) 中国(中華)料理・ラーメン・洋食などグリース量が多い食種では、阻集グリースの清掃周期は14日以上で計算を行う。

表-2 回転数の標準値

食 種	回転数 [人/席・日]
中国(中華)料理	5.0
洋 食	4.5
和 食	5.0
ラ ー メ ン	5.0
そば・うどん	5.0
軽 食	7.0
喫 茶	8.0
ファーストフード	8.0
社員・従業員用厨房	4.0

SHASE-S217-2008

n_o : 補正回転数(標準値を表-3に示す) [人/席・日]

i_b : たい積残さの掃除周期(受渡当事者間の打合せによる) [日]

1/1000 : G_b を求めるための単位の換算係数

表-1 各因子の標準値

因 子		W_m	t ※)	k	g_u	g_b	
		店舗全面積1 ㎡・1日あたり の使用水量 [ℓ/(㎡・日)]	1日あたりの 厨房使用時間 [min/日]	危険率を用い て定めたと きの流量の平 均流量に対 する倍率 [倍]	店舗全面積 1㎡・1日あたり の阻集グリー スの質量 [g/(㎡・日)]	店舗全面積 1㎡・1日あたり のたい積残さ の質量 [g/(㎡・日)]	
食 種	中国(中華)料理	130	720	3.5	18.0	8.0	
	洋 食	95			9.5	3.5	
	和 食	100			7.0	2.5	
	ラ ー メ ン	150			19.5	7.5	
	そば・うどん	150			9.0	3.0	
	軽 食	90			6.0	2.0	
	喫 茶	85			3.5	1.5	
	ファーストフード	20			3.0	1.0	
	社員・従業員食堂	90			600	6.5	3.0
	学 生 食 堂	45				3.0	1.0

注 ※) 1日当りの使用時間が前もってわかっている場合は、その時間を1日当りの厨房使用時間としてもよい。

SHASE-S217-2016

注1) 上記以外の食種については、使用実態を予測し上記のいずれかに該当させ、選定を行う。

注2) 製造と販売のみの場合、Aの数値は厨房のみの面積とする。

注3) 中国(中華)料理・ラーメン・洋食などグリース量が多い食種では、阻集グリースの清掃周期は14日以上で計算を行う。

表-2 回転数の標準値

食 種	n : 回転数 [人/席・日]
中国(中華)料理	5.0
洋 食	4.5
和 食	5.0
ラ ー メ ン	5.0
そば・うどん	5.0
軽 食	7.0
喫 茶	8.0
ファーストフード	8.0
社員・従業員食堂	4.0
学 生 食 堂	4.0

SHASE-S217-2016

空気調和・衛生工学会規格(SHASE)の改訂に伴う文言の追記、修正。

表-3 補正回転数 [1席・1日あたりの利用人数] の標準値

食 種		補正回転数 [人/(席・日)]								
		厨房を含む店舗全面積 [㎡]								
		25	50	75	100	125	150	175	200	250
営業用厨房	中国（中華）料理	—	—	3.1	3.1	3.2	3.3	3.3	3.3	3.4
	洋 食	—	—	—	2.0	2.1	2.3	2.4	2.6	2.8
	和 食	—	—	2.1	2.3	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9
	ラ ー メ ン	—	2.9	3.5	4.1	4.4	4.8	5.0	5.2	—
	そば・うどん	—	2.9	3.5	4.1	4.4	4.8	5.0	5.2	—
	軽 食	3.3	4.2	4.4	4.7	4.8	4.9	4.9	5.0	5.1
	喫 茶	3.7	4.7	5.3	5.7	5.9	6.0	6.1	6.2	—
	ファーストフード	3.3	4.2	4.4	4.7	4.8	4.9	4.9	5.0	5.1
社員・従業員用厨房		—	—	—	—	—	2.4	2.6	2.8	3.0
食 種		補正回転数 [人/(席・日)]								
		厨房を含む店舗全面積 [㎡]								
		300	400	500	600	700	800	1,000	1,500	
営業用厨房	中国（中華）料理	3.4	3.4	—	—	—	—	—	—	
	洋 食	2.9	3.1	3.2	3.3	3.3	3.4	—	—	
	和 食	3.0	3.2	—	—	—	—	—	—	
	ラ ー メ ン	—	—	—	—	—	—	—	—	
	そば・うどん	—	—	—	—	—	—	—	—	
	軽 食	—	—	—	—	—	—	—	—	
	喫 茶	—	—	—	—	—	—	—	—	
	ファーストフード	—	—	—	—	—	—	—	—	
社員・従業員用厨房		3.3	3.6	3.8	3.9	4.1	4.2	4.3	4.5	

注) 厨房を含む店舗全面積の値が表中の中間となる場合には、比例補正して求める。

SHASE-S217-2008

表-3 補正回転数の標準値

食 種		補正回転数 [人/(席/日)]								
		厨房を含む店舗全面積 [㎡] ※)								
		25	50	75	100	125	150	175	200	250
営業用厨房	中国（中華）料理	—	—	3.1	3.1	3.2	3.3	3.3	3.3	3.4
	洋 食	—	—	—	2.0	2.1	2.3	2.4	2.6	2.8
	和 食	—	—	2.1	2.3	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9
	ラ ー メ ン	—	3.1	3.9	4.5	4.9	5.2	5.5	5.7	—
	そば・うどん	—	3.1	3.9	4.5	4.9	5.2	5.5	5.7	—
	軽 食	3.3	4.2	4.4	4.7	4.8	4.9	4.9	5.0	5.1
	喫 茶	3.7	4.7	5.3	5.7	5.9	6.0	6.1	6.2	—
	ファーストフード	3.3	4.2	4.4	4.7	4.8	4.9	4.9	5.0	5.1
社員・従業員食堂		—	—	—	—	—	2.4	2.6	2.8	3.0
学 生 食 堂		—	—	—	—	—	2.4	2.6	2.8	3.0
食 種		補正回転数 [人/(席/日)]								
		厨房を含む店舗全面積 [㎡] ※)								
		300	400	500	600	700	800	1,000	1,500	
営業用厨房	中国（中華）料理	3.4	3.4	—	—	—	—	—	—	
	洋 食	2.9	3.1	3.2	3.3	3.3	3.4	—	—	
	和 食	3.0	3.2	—	—	—	—	—	—	
	ラ ー メ ン	—	—	—	—	—	—	—	—	
	そば・うどん	—	—	—	—	—	—	—	—	
	軽 食	—	—	—	—	—	—	—	—	
	喫 茶	—	—	—	—	—	—	—	—	
	ファーストフード	—	—	—	—	—	—	—	—	
社員・従業員食堂		3.3	3.6	3.8	3.9	4.1	4.2	4.3	4.5	
学 生 食 堂		3.3	3.6	3.8	3.9	4.1	4.2	4.3	4.5	

注 ※) 厨房を含む店舗全面積の値が表中の中間となる場合には、比例補正して求める。

SHASE-S217-2016

空気調和・衛生工学会規格（SHASE）の改訂に伴う文言の追記、修正。

現 行	改正案	備 考
<p>2.2 利用人数に基づく選定方法（利用人数が判明している場合）</p> <p>(1) 選定法 以下の手順によって行う。</p> <p>ア (2)及び(3)に示す計算法によって、流入流量並びに阻集グリース及びたい積残さの質量を求める。</p> <p>イ 許容流入流量及び標準阻集グリースの質量が、アによって求めたそれぞれの値以上となる阻集器を選定する。</p> <p>(2) 流入流量の計算法 流入流量Qは、式⑤によって求める。</p> $Q = NW_m' \times \frac{1}{t} \times k \quad \dots \dots \dots \textcircled{5}$ <p>ここに、 Q : 流入流量 [ℓ/min] N : 1日あたりの利用人数 [人/日] W_m' : 利用人数1人あたりの使用水量（標準値を表-4に示す） [ℓ/人] t : 1日あたりの厨房使用時間（標準値を表-4に示す） [min/日] k : 危険率を用いて定めたときの流量の平均流量に対する倍率（標準値を表-4に示す） [倍]</p> <p>(3) 阻集グリース及びたい積残さの質量の計算法 阻集グリース及びたい積残さの質量Gは、式⑥によって求める。</p> $G = G_u + G_b \quad \dots \dots \dots \textcircled{6}$ <p>ここに、 G : 阻集グリース及びたい積残さの質量 [kg] G_u : 阻集グリースの質量 [kg] G_b : たい積残さの質量 [kg]</p> <p>ア 阻集グリースの質量 阻集グリースの質量は、式⑦によって求める。</p> $G_u = N g_{u'} \times i_u C_2 \quad \dots \dots \dots \textcircled{7}$ <p>ここに、 G_u : 阻集グリースの質量 [kg] N : 1日あたりの利用人数 [人/日] $g_{u'}$: 利用人数1人あたりの阻集グリースの質量（標準値を表-4に示す） [g/人] i_u : 阻集グリースの掃除周期（受渡し当事者間の打合せによる） [日] C_2 : 定数（$=10^{-3}$） [kg/g]</p> <p>イ たい積残さの質量 たい積残さの質量は、式⑧によって求める。</p> $G_b = N g_{b'} \times i_b C_2 \quad \dots \dots \dots \textcircled{8}$ <p>ここに、</p> <p style="text-align: center;">参-11</p>	<p>2.2 利用人数に基づく選定方法（利用人数が判明している場合）</p> <p>(1) 選定法 以下の手順によって行う。</p> <p>ア (2)及び(3)に示す計算法によって、流入流量並びに阻集グリース及びたい積残さの質量を求める。</p> <p>イ 許容流入流量及び標準阻集グリースの質量が、アによって求めたそれぞれの値以上となる阻集器を選定する。</p> <p>(2) 流入流量の計算法 流入流量Qは、式⑤によって求める。</p> $Q = NW_m' \times \frac{1}{t} \times k \quad \dots \dots \dots \textcircled{5}$ <p>ここに、 Q : 流入流量 [ℓ/min] N : 1日あたりの利用人数 [人/日] W_m' : 利用人数1人あたりの使用水量（標準値を表-4に示す） [ℓ/人] t : 1日あたりの厨房使用時間（標準値を表-4に示す） [min/日] k : 危険率を用いて定めたときの流量の平均流量に対する倍率（標準値を表-4に示す） [倍]</p> <p>(3) 阻集グリース及びたい積残さの質量の計算法 阻集グリース及びたい積残さの質量Gは、式⑥によって求める。</p> $G = G_u + G_b \quad \dots \dots \dots \textcircled{6}$ <p>ここに、 G : 阻集グリース及びたい積残さの質量 [kg] G_u : 阻集グリースの質量 [kg] G_b : たい積残さの質量 [kg]</p> <p>ア 阻集グリースの質量 阻集グリースの質量は、式⑦によって求める。</p> $G_u = \frac{1}{1000} \times N g_{u'} \times i_u \quad \dots \dots \dots \textcircled{7}$ <p>ここに、 G_u : 阻集グリースの質量 [kg] N : 1日あたりの利用人数 [人/日] $g_{u'}$: 利用人数1人あたりの阻集グリースの質量（標準値を表-4に示す） [g/人] i_u : 阻集グリースの掃除周期（受渡し当事者間の打合せによる） [日] $\frac{1}{1000}$: G_uを求めるための単位の換算係数</p> <p>イ たい積残さの質量 たい積残さの質量は、式⑧によって求める。</p> $G_b = \frac{1}{1000} \times N g_{b'} \times i_b \quad \dots \dots \dots \textcircled{8}$ <p>ここに、</p> <p style="text-align: center;">参-11</p>	<p>空気調和・衛生工学会規格（SHASE）の改訂に伴う文言の追記、修正。</p>

G_b : たい積残さの質量 [kg]
 N : 1日あたりの利用人数 [人/日]
 $g_{b'}$: 利用人数1人あたりのたい積残さの質量 (標準値を表-4に示す) [g/人]
 i_b : たい積残さの掃除周期 (受渡し当事者間の打合せによる) [日]
 C_2 : 定数 ($=10^{-3}$) [kg/g]

表-4 各因子の標準値

因子		W_m'	t	k	$g_{u'}$	$g_{b'}$
		利用人数1人あたりの使用水量	1日あたりの厨房使用時間	危険率を用いて定めたときの流量の平均流量に対する倍率	利用人数1人あたりの阻集グリースの質量	利用人数1人あたりのたい積残さの質量
食 種		[l/人]	[min/日]	[倍]	[g/人]	[g/人]
営業用厨房	中国(中華)料理	80	720	3.5	11.0	5.0
	洋食	80			8.0	3.0
	和食	80			5.5	2.0
	ラーメン	50			6.5	2.5
	そば・うどん	50			3.0	1.0
	軽食	45			3.0	1.0
	喫茶	25			1.0	0.5
	ファーストフード	10			1.5	0.5
社員・従業員用厨房		50	600		3.5	1.5

SHASE-S217-2008

G_b : たい積残さの質量 [kg]
 N : 1日あたりの利用人数 [人/日]
 $g_{b'}$: 利用人数1人あたりのたい積残さの質量 (標準値を表-4に示す) [g/人]
 i_b : たい積残さの掃除周期 (受渡し当事者間の打合せによる) [日]
 $1/1000$: G_b を求めるための単位の換算係数

表-4 各因子の標準値

因子		W_m'	t ※)	k	$g_{u'}$	$g_{b'}$
		利用人数1人あたりの使用水量	1日あたりの厨房使用時間	危険率を用いて定めたときの流量の平均流量に対する倍率	利用人数1人あたりの阻集グリースの質量	利用人数1人あたりのたい積残さの質量
食 種		[l/人]	[min/日]	[倍]	[g/人]	[g/人]
営業用厨房	中国(中華)料理	80	720	3.5	11.0	5.0
	洋食	80			8.0	3.0
	和食	80			5.5	2.0
	ラーメン	50			6.5	2.5
	そば・うどん	50			3.0	1.0
	軽食	45			3.0	1.0
	喫茶	25			1.0	0.5
	ファーストフード	10			1.5	0.5
社員・従業員食堂		50	600		3.5	1.5
学生食堂		25			1.5	0.5
学校給食		15	480		0.7	0.3

注 ※) 1日あたりの使用時間が前もってわかっている場合は、その時間を1日あたりの厨房使用時間としてもよい。

SHASE-S217-2016

空気調和・衛生工学会規格 (SHASE) の改訂に伴う文言の追記、修正。

現 行	改正案	備 考
<p>3 工場製造阻集器の選定例</p> <p>店舗全面積 300 m²の営業用厨房（洋食店）における阻集器の選定手順を示す。なお、回転数は3.5人/（席・日）、阻集グリースの掃除周期は7日（1週間）、たい積残さの掃除周期は28日（4週間）とする。</p> <p>(1) 流入流量の計算</p> <p>流入流量は、回転数が3.5人/（席・日）であるので、式①から次のように求められる。</p> $Q = A W_m \times \frac{n}{n_o} \times \frac{1}{t} \times k$ $= 300[\text{m}^2] \times 95[\text{l}/(\text{m}^2 \cdot \text{日})] \times \frac{3.5}{2.9} \times \frac{1}{720[\text{min}/\text{日}]} \times 3.5[\text{倍}] = 167.2[\text{l}/\text{min}]$ <p>(2) 阻集グリース及びたい積残さの質量の計算</p> <p>ア 阻集グリースの質量の計算</p> <p>阻集グリースの質量 G_u は、阻集グリースの掃除周期が7日（1週間）であるので、式③から次のように求められる。</p> $G_u = A g_u \times \frac{n}{n_o} \times i_u \times C_2$ $= 300[\text{m}^2] \times 9.0[\text{g}/(\text{m}^2 \cdot \text{日})] \times \frac{3.5}{2.9} \times 7[\text{日}] \times 10^{-3}[\text{kg}/\text{g}] = 22.8[\text{kg}]$ <p>イ たい積残さの質量の計算</p> <p>たい積残さの質量 G_b は、たい積残さの掃除周期が28日（4週間）であるので、式④から次のように求められる。</p> $G_b = A g_b \times \frac{n}{n_o} \times i_b \times C_2$ $= 300[\text{m}^2] \times 3.5[\text{g}/(\text{m}^2 \cdot \text{日})] \times \frac{3.5}{2.9} \times 28[\text{日}] \times 10^{-3}[\text{kg}/\text{g}] = 35.5[\text{kg}]$ <p>したがって、阻集グリース及びたい積残さの質量 G は、式②から次のように求められる。</p> $G = G_u + G_b = 22.8 + 35.5 = 58.3[\text{kg}]$ <p>(3) 選定すべき工場製造阻集器</p> <p>許容流入流量については167.2l/min以上、かつ標準阻集グリースの質量については58.3kg以上となる阻集器を選ぶ。</p>	<p>3 工場製造阻集器の選定例</p> <p>店舗全面積 300 m²の洋食店における阻集器の選定手順を示す。なお、回転数は4.5人/（席・日）、阻集グリースの掃除周期は14日（2週間）、たい積残さの掃除周期は28日（4週間）とする。</p> <p>(1) 流入流量の計算</p> <p>流入流量は、回転数が4.5人/（席・日）であるので、式①から次のように求められる。</p> $Q = A W_m \times \frac{n}{n_o} \times \frac{1}{t} \times k$ $= 300[\text{m}^2] \times 95[\text{l}/(\text{m}^2 \cdot \text{日})] \times \frac{4.5}{2.9} \times \frac{1}{720[\text{min}/\text{日}]} \times 3.5[\text{倍}] = 215.0[\text{l}/\text{min}]$ <p>(2) 阻集グリース及びたい積残さの質量の計算</p> <p>ア 阻集グリースの質量の計算</p> <p>阻集グリースの質量 G_u は、阻集グリースの掃除周期が14日（2週間）であるので、式③から次のように求められる。</p> $G_u = 1/1000 \times A g_u \times \frac{n}{n_o} \times i_u \times C_2$ $= 1/1000 \times 300[\text{m}^2] \times 9.5[\text{g}/(\text{m}^2 \cdot \text{日})] \times \frac{4.5}{2.9} \times 14[\text{日}] = 62.0[\text{kg}]$ <p>イ たい積残さの質量の計算</p> <p>たい積残さの質量 G_b は、たい積残さの掃除周期が28日（4週間）であるので、式④から次のように求められる。</p> $G_b = 1/1000 \times A g_b \times \frac{n}{n_o} \times i_b \times C_2$ $= 1/1000 \times 300[\text{m}^2] \times 3.5[\text{g}/(\text{m}^2 \cdot \text{日})] \times \frac{4.5}{2.9} \times 28[\text{日}] = 45.7[\text{kg}]$ <p>したがって、阻集グリース及びたい積残さの質量 G は、式②から次のように求められる。</p> $G = G_u + G_b = 62.0 + 45.7 = 107.7[\text{kg}]$ <p>(3) 選定すべき工場製造阻集器</p> <p>許容流入流量については215.0l/min以上、かつ標準阻集グリースの質量については107.7kg以上となる阻集器を選ぶ。</p>	<p>空気調和・衛生工学会規格（SHASE）の改訂に伴う文言の追記、修正。</p>
参-13	参-13	

現 行	改正案	備 考
<p>4 現場施工阻集器の容量算定方法</p> <p>現場施工阻集器は、図-1に示すように、上部空間層、阻集グリース層、グリース分離槽及びたい積残さ層からなり、阻集器実容量 V及び上部空間層の高さ Hを、式⑨～⑬によって求める。</p> $V_u = A g_u \times \frac{n}{n_o} \times i_u C_2 v \dots\dots\dots ⑨$ $V_u = N g_{u'} \times i_u C_2 v \dots\dots\dots ⑨'$ $V_s = Q T \dots\dots\dots ⑩$ $V_b = A g_b \times \frac{n}{n_o} \times i_b C_2 v \dots\dots\dots ⑪$ $V_b = N g_{b'} \times i_b C_2 v \dots\dots\dots ⑪'$ $V = V_u + V_s + V_b \dots\dots\dots ⑫$ $H = H_1 + H_2 \dots\dots\dots ⑬$ <p>ここに、</p> <p>V_u : 阻集グリース層の容量 [ℓ] V_s : グリース分離層の容量 [ℓ] V_b : たい積残さ層の容量 [ℓ] V : 阻集器実容量 [ℓ] H : 上部空間層の高さ [mm] A : 店舗全面積 [㎡] g_u : 店舗全面積 1 ㎡・1日あたりの阻集グリースの質量 (標準値を表-1に示す) [g/(㎡・日)] n : 回転数 [1席・1日あたりの利用人数] (受渡し当事者間の打合せによる。標準値を表-2に示す) [人/(席・日)] n_o : 補正回転数 (標準値を表-3に示す) [人/(席・日)] i_u : 阻集グリースの掃除周期 (受渡し当事者間の打合せによる) [日] C_2 : 定数 (=10⁻³) [kg/g] v : 比体積 (=1.0) [ℓ/kg] N : 1日あたりの利用人数 [人/日] $g_{u'}$: 利用人数 1人あたりの阻集グリースの質量 (標準値を表-4に示す) [g/人] Q : 流入流量 [式①または式⑤によって計算した値] [ℓ/min] T : 滞留時間 (標準値は 1.0) [min] g_b : 店舗全面積 1 ㎡・1日あたりのたい積残さの質量 (標準値を表-1に示す) [g/(㎡・日)] i_b : たい積残さの掃除周期 (受渡し当事者間の打合せによる) [日] $g_{b'}$: 利用人数 1人あたりのたい積残さの質量 (標準値を表-4に示す) [g/人]</p> <p style="text-align: center;">参-14</p>	<p>4 現場施工阻集器の容量算定方法</p> <p>現場施工阻集器は、図-1に示すように、上部空間層の高さ、阻集グリース層、グリース分離槽及びたい積残さ層からなる。</p> <p>阻集器の容量算定は、一般に店舗全面積に基づく算定方法を用いるが、利用人数が想定できる場合には、利用人数に基づく算定方法を用いてもよい。</p> <p>なお、全店舗面積に基づく算定方法の場合は、阻集器実容量 V及び上部空間層の高さ Hを式⑨～⑬によって求める。また、利用人数にも基づく算定方法の場合には、式⑨'・⑩・⑪'・⑫・⑬によって求める。</p> $V_u = 1/1000 \times A g_u \times \frac{n}{n_o} \times i_u \times v \dots\dots\dots ⑨$ $V_u = 1/1000 \times N g_{u'} \times i_u \times v \dots\dots\dots ⑨'$ $V_s = Q T \dots\dots\dots ⑩$ $V_b = 1/1000 \times A g_b \times \frac{n}{n_o} \times i_b \times v \dots\dots\dots ⑪$ $V_b = 1/1000 \times N g_{b'} \times i_b \times v \dots\dots\dots ⑪'$ $V = V_u + V_s + V_b \dots\dots\dots ⑫$ $H = H_1 + H_2 \dots\dots\dots ⑬$ <p>ここに、</p> <p>V_u : 阻集グリース層の容量 [ℓ] V_s : グリース分離層の容量 [ℓ] V_b : たい積残さ層の容量 [ℓ] V : 阻集器実容量 [ℓ] H : 上部空間層の高さ [mm] A : 店舗全面積 [㎡] g_u : 店舗全面積 1 ㎡・1日あたりの阻集グリースの質量 (標準値を表-1に示す) [g/(㎡・日)] n : 回転数 [1席・1日あたりの利用人数] (受渡し当事者間の打合せによって定めてもよい。標準値を表-2に示す) [人/(席・日)] n_o : 補正回転数 (標準値を表-3に示す) [人/(席・日)] i_u : 阻集グリースの掃除周期 (受渡し当事者間の打合せによる) [日] v : 比体積 (=1.0) [ℓ/kg] N : 1日あたりの利用人数 [人/日] $g_{u'}$: 利用人数 1人あたりの阻集グリースの質量 (標準値を表-4に示す) [g/人] Q : 流入流量 (店舗全面積に基づく算定方法の場合は式①、また、利用人数に基づく算定方法の場合には式⑤によって求めた値) [ℓ/min] T : 滞留時間 (標準値は 1.0) [min] g_b : 店舗全面積 1 ㎡・1日あたりのたい積残さの質量 (標準値を表-1に示す) [g/(㎡・日)]</p> <p style="text-align: center;">参-14</p>	<p>空気調和・衛生工学会規格 (SHASE) の改訂に伴う文言の追記、修正。</p>

H_1 : 流入管の内径または側溝の深さに等しい高さ [mm]
 H_2 : 標準水位面と上昇水位面との差 (標準値を表-5に示す) [mm]

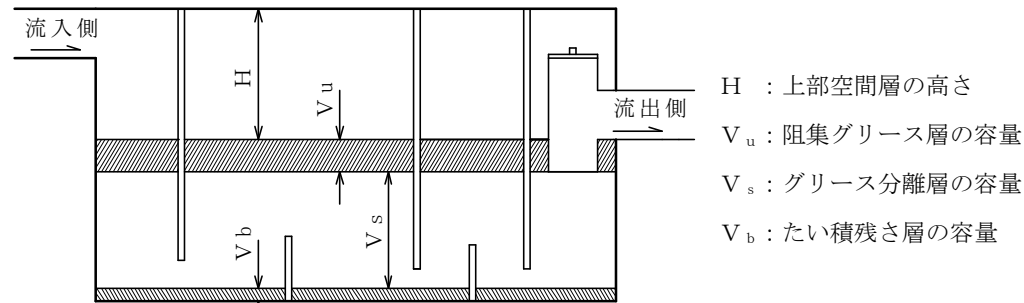


図-1 阻集器の容量

表-5 標準水位面と上昇水位面との差の標準値

実容量[l]	標準水位面と上昇水位面との差[mm]
50 ~ 800	175
801 ~ 1000	200

SHASE-S217-2008

5 現場施工阻集器の構造

現場施工阻集器の構造は、次の各号に適合するものとする。

- (1) 阻集器の(長さ):(幅):(標準水位面から底部までの深さ)の割合は、(1.5~2.0):(1.0):(0.6~0.8)を標準とする。
- (2) 隔板は、流水用開口部を除き、水密に周壁あるいは底部に接続する。
- (3) 隔板の設置位置は、図-2に示すように設ける。
- (4) 隔板の標準水位面からの立上げ部は、阻集器内に流入した排水が隔板を越流しないように設ける。
- (5) 隔板の流水用開口部の幅は、阻集器の幅とする。
- (6) トラップの封水深は、100 mm以上とする。

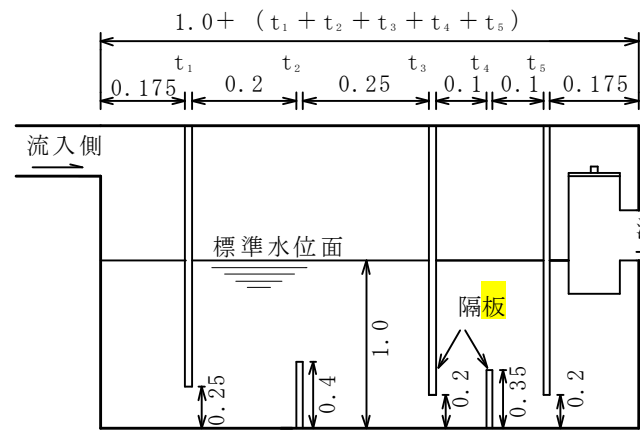


図-2 隔板の設置位置

注) 図中の長さの方向の数値は、有効長さに対する各部の寸法の割合を、深さの方向の数値は、標準水位面から底部までの深さに対する各部の寸法の割合を示す。
 t_1 から t_5 は、各隔板の厚さを示す。

i_b : たい積残さの掃除周期 (受渡し当事者間の打合せによる) [日]
 g_b : 利用人数1人あたりのたい積残さの質量 (標準値を表-4に示す) [g/人]
 H_1 : 流入管の内径または側溝の深さに等しい高さ [mm]
 H_2 : 標準水位面と上昇水位面との差 (標準値を表-5に示す) [mm]

1/1000 : V_u 及び V_b を求めるための単位の換算係数

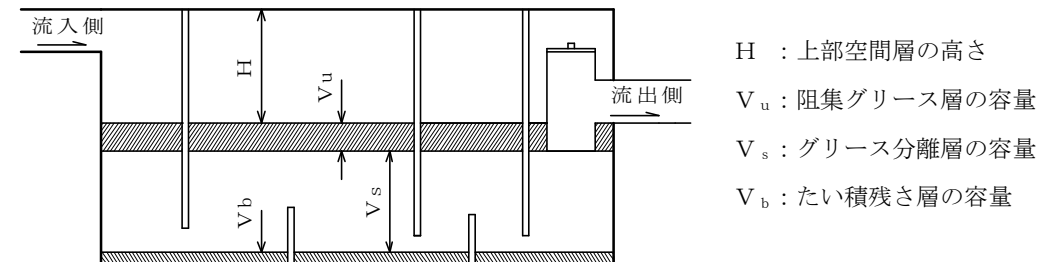


図-1 阻集器の容量

表-5 標準水位面と上昇水位面との差の標準値

実容量[l]	標準水位面と上昇水位面との差[mm]
500 ~ 800	175
801 ~ 1000	200

SHASE-S217-2016

5 現場施工阻集器の構造基準

現場施工阻集器の構造は、次の各号に適合するものとする。

- (1) 阻集器の(長さ):(幅):(標準水位面から底部までの深さ)の割合は、(1.5~2.0):(1.0):(0.6~0.8)を標準とする。
- (2) 隔壁は、流水用開口部を除き、水密に周壁あるいは底部に接続する。
- (3) 隔壁の設置位置は、図-2に示すように設ける。
- (4) 隔壁の標準水位面からの立上げ部は、阻集器内に流入した排水が隔壁を越流しないように設ける。
- (5) 隔壁の流水用開口部の幅は、阻集器の幅とする。
- (6) トラップの封水深は、100 mm以上とする。

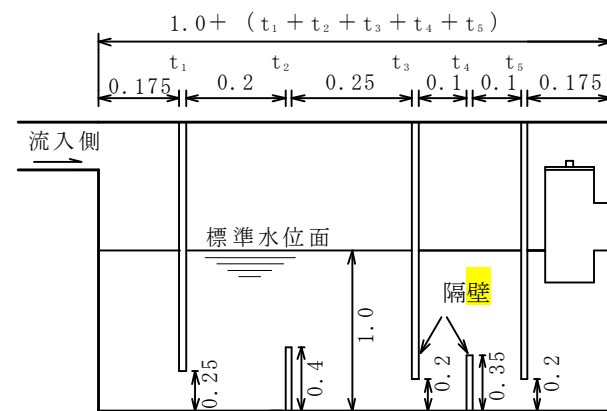
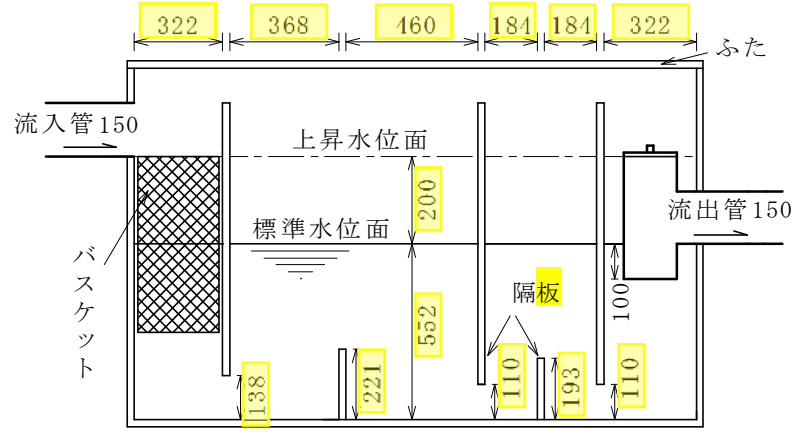
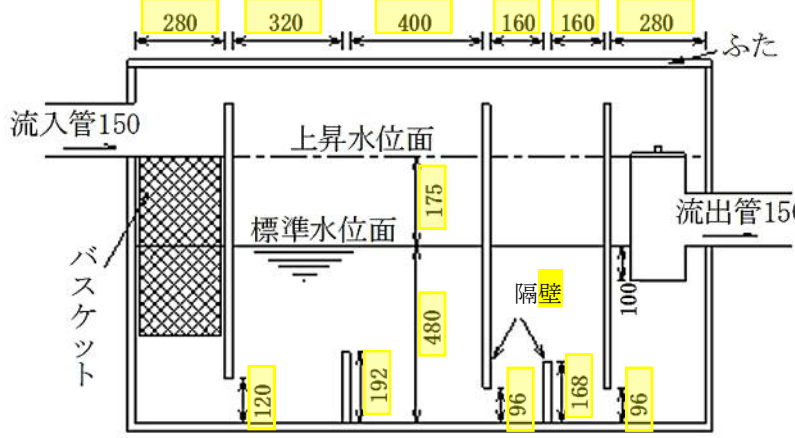


図-2 隔壁の設置位置

注) 図中の長さの方向の数値は、有効長さに対する各部の寸法の割合を、深さの方向の数値は、標準水位面から底部までの深さに対する各部の寸法の割合を示す。
 t_1 から t_5 は、各隔壁の厚さを示す。

空調調和・衛生工学会規格 (SHASE) の改訂に伴う文言の追記、修正。

現 行	改正案	備 考
<p>6 現場施工阻集器の容量の算定及び構造の決定例</p> <p>食堂全面積が 1800 m² の社員・従業員厨房 に設置する阻集器の容量の算定及び構造の決定手順を示す。なお、回転数は 3.5 人/ (席・日)、阻集グリースの掃除周期は 7 日 (1 週間)、たい積残さの掃除周期は 28 日 (4 週間) とする。</p> <p>(1) 容量の算定</p> <p>阻集グリース層の容量、グリース分離層の容量、たい積残さ層の容量、阻集器実容量及び上部空間層の高さは、式⑨～⑬を用いて、次のように求めることができる。</p> <p>阻集グリース層の容量 V_u は、阻集グリースの掃除周期が 7 日 (1 週間) であるので、式⑨から次のようになる。</p> $V_u = A g_u \times \frac{n}{n_o} \times i_u C_2 v$ $= 1800 [\text{m}^2] \times 6.5 [\text{g}/(\text{m}^2 \cdot \text{日})] \times \frac{3.5}{4.5} \times 7 [\text{日}] \times 10^{-3} [\text{kg}/\text{g}] \times 1 [\text{l}/\text{kg}] = 63.7 [\text{l}]$ <p>グリース分離層の容量 V_s は、まず、流入流量 Q を求めると、式⑩から次のようになる。</p> $Q = A W_m \times \frac{n}{n_o} \times \frac{1}{t} k$ $= 1800 [\text{m}^2] \times 90 [\text{l}/(\text{m}^2 \cdot \text{日})] \times \frac{3.5}{4.5} \times \frac{1}{60 [\text{min}/\text{日}]} \times 3.5 [\text{倍}] = 735.0 [\text{l}/\text{min}]$ <p>さらに、滞留時間を 1 min とすると、式⑪から次のようになる。</p> $V_s = Q T$ $= 735.0 [\text{l}/\text{min}] \times 1 [\text{min}] = 735.0 [\text{l}]$ <p>たい積残さ層の容量 V_b は、たい積残さの掃除周期が 28 日間であるので、式⑫から次のようになる。</p> $V_b = A g_b \times \frac{n}{n_o} \times i_b C_2 v$ $= 1800 [\text{m}^2] \times 3.0 [\text{g}/(\text{m}^2 \cdot \text{日})] \times \frac{3.5}{4.5} \times 28 [\text{日}] \times 10^{-3} [\text{kg}/\text{g}] \times 1 [\text{l}/\text{kg}]$ $= 117.6 [\text{l}]$ <p>したがって、阻集器実容量 V は、式⑬から次のようになる。</p> $V = V_u + V_s + V_b$ $= 63.7 + 735.0 + 117.6 = 916.3 [\text{l}]$ <p>さらに、上部空間層の高さ H は、流入管及び流出管の口径を 150 mm、また、阻集器実容量が 916.3 l であるから、標準水位面と上昇水位面との差を 200 mm とすると、$H_1 = 150$ mm、$H_2 = 200$ mm となり、式⑬から次のようになる。</p> $H = H_1 + H_2$ $= 150 [\text{mm}] + 200 [\text{mm}] = 350 [\text{mm}]$	<p>6 現場施工阻集器の容量の算定及び構造の決定例</p> <p>食堂全面積が 1000 m² の社員・従業員食堂 に設置する阻集器の容量の算定及び構造の決定手順を示す。なお、回転数は 4.0 人/ (席・日)、阻集グリースの掃除周期は 7 日 (1 週間)、たい積残さの掃除周期は 28 日 (4 週間) とする。</p> <p>(1) 容量の算定</p> <p>阻集グリース層の容量、グリース分離層の容量、たい積残さ層の容量、阻集器実容量及び上部空間層の高さは、式⑨～⑬を用いて、次のように求めることができる。</p> <p>阻集グリース層の容量 V_u は、阻集グリースの掃除周期が 7 日 (1 週間) であるので、式⑨から次のようになる。</p> $V_u = 1/1000 \times A g_u \times \frac{n}{n_o} \times i_u \times v$ $= 1/1000 \times 1000 [\text{m}^2] \times 6.5 [\text{g}/(\text{m}^2 \cdot \text{日})] \times \frac{4.0}{4.3} \times 7 [\text{日}] \times 1 [\text{l}/\text{kg}] = 42.4 [\text{l}]$ <p>グリース分離層の容量 V_s は、まず、流入流量 Q を求めると、式⑩から次のようになる。</p> $Q = A W_m \times \frac{n}{n_o} \times \frac{1}{t} k$ $= 1000 [\text{m}^2] \times 90 [\text{l}/(\text{m}^2 \cdot \text{日})] \times \frac{4.0}{4.3} \times \frac{1}{600 [\text{min}/\text{日}]} \times 3.5 [\text{倍}] = 488.4 [\text{l}/\text{min}]$ <p>さらに、滞留時間を 1 min とすると、式⑪から次のようになる。</p> $V_s = Q T$ $= 488.4 [\text{l}/\text{min}] \times 1 [\text{min}] = 488.4 [\text{l}]$ <p>たい積残さ層の容量 V_b は、たい積残さの掃除周期が 28 日間であるので、式⑫から次のようになる。</p> $V_b = 1/1000 \times A g_b \times \frac{n}{n_o} \times i_b \times v$ $= 1/1000 \times 1000 [\text{m}^2] \times 3.0 [\text{g}/(\text{m}^2 \cdot \text{日})] \times \frac{4.0}{4.3} \times 28 [\text{日}] \times 1 [\text{l}/\text{kg}]$ $= 78.2 [\text{l}]$ <p>したがって、阻集器実容量 V は、式⑬から次のようになる。</p> $V = V_u + V_s + V_b$ $= 42.4 + 488.4 + 78.2 = 609.0 [\text{l}]$ <p>さらに、上部空間層の高さ H は、流入管及び流出管の口径を 150 mm、また、阻集器実容量が 609.0 l であるから、標準水位面と上昇水位面との差を 175 mm とすると、$H_1 = 150$ mm、$H_2 = 175$ mm となり、式⑬から次のようになる。</p> $H = H_1 + H_2$ $= 150 [\text{mm}] + 175 [\text{mm}] = 325 [\text{mm}]$	<p>空気調和・衛生工学会規格 (SHASE) の改訂に伴う文言の追記、修正。</p> <p>現行) 回転数 3.5 人/ (席・日) 誤記による訂正。</p>
参-16	参-16	

現 行	改正案	備 考
<p>(2) 構造の決定</p> <p>ア 阻集器の（長さ）：（幅）：（標準水位面から底部までの深さ）の割合を、（2.0）：（1.0）：（0.6）とすると、阻集器の実容量が 916.3ℓ であるので、長さ×幅×深さは、1840 mm×920 mm×552 mm（実容量 934.4ℓ）となる。</p> <p>イ 阻集器の各部分の寸法は、図-2を基に、図-3のように決定する。</p>  <p>注) 幅は920とする。</p> <p>図-3 現場施工阻集器の各部の寸法</p> <p>※ 特定施設を設置する特定事業場については、下水処理課と事前に協議を行うものとする。</p>	<p>(2) 構造の決定</p> <p>ア 阻集器の（長さ）：（幅）：（標準水位面から底部までの深さ）の割合を、（2.0）：（1.0）：（0.6）とすると、阻集器の実容量が 609.0ℓ であるので、長さ×幅×深さは、1600 mm×800 mm×480 mm（実容量 614.4ℓ）となる。（容量算定：609.0ℓ < 構造算定 614.4ℓ OK）</p> <p>イ 阻集器の各部分の寸法は、図-2を基に、図-3のように決定する。</p>  <p>注) 構造算定は、幅寸法を仮定し、長さ×幅×深さにより実容量を求め、その値が(1)で算定した実容量より上回るよう、幅寸法を決定する。</p> <p>図-3 現場施工阻集器の各部の寸法</p> <p>※ 特定施設を設置する特定事業場については、下水処理課と事前に協議を行うものとする。</p>	<p>空気調和・衛生工学会規格（SHASE）の改訂に伴う文言の追記、修正。</p>
参-17	参-17	

現 行				改正案				備 考
規 格 番 号	名 称	制 定	最終改正	規 格 番 号	名 称	制 定	最終改正	空 気 調 和 ・ 衛 生 工 学 会 規 格 (SHASE) の 改 訂 に 伴 う 文 言 の 追 記 、 修 正 。
配管付属品 (ポンプ)				配管付属品 (ポンプ)				
JIS B8325	設備排水用水中モーターポンプ	1968/08/01	2003/03/20	JIS B8325	設備排水用水中モーターポンプ	1968/08/01	2003/03/20	
JIS B2011	青銅弁	1951/06/26	2010/03/23	JIS B2011	青銅弁	1951/06/26	2010/03/23	
JIS B2031	ねずみ鑄鉄弁	1958/03/29	1994/11/01	JIS B2031	ねずみ鑄鉄弁	1958/03/29	1994/11/01	
衛生器具				衛生器具				
JIS A4002	床排水トラップ	1968/01/01	1989/03/01	JIS A4002	床排水トラップ	1968/01/01	1989/03/01	
JIS A4401	洗面化粧ユニット類	1973/07/01	2005/11/20	JIS A4401	洗面化粧ユニット類	1973/07/01	2005/11/20	
JIS A4410	住宅用複合サニタリーユニット	1976/03/01	2005/11/20	JIS A4410	住宅用複合サニタリーユニット	1976/03/01	2005/11/20	
JIS A4413	住宅用配管ユニット	1976/03/01	2006/08/20	JIS A4413	住宅用配管ユニット	1976/03/01	2006/08/20	
JIS A4416	住宅用浴室ユニット	1980/02/01	2005/11/20	JIS A4416	住宅用浴室ユニット	1980/02/01	2005/11/20	
JIS A4417	住宅用便所ユニット	1980/02/01	2005/11/20	JIS A4417	住宅用便所ユニット	1980/02/01	2005/11/20	
JIS A4418	住宅用洗面所ユニット	1980/02/01	2005/11/20	JIS A4418	住宅用洗面所ユニット	1980/02/01	2005/11/20	
JIS A4420	キッチン設備の構成材	1981/03/01	2005/11/20	JIS A4420	キッチン設備の構成材	1981/03/01	2005/11/20	
JIS A4421	設備ユニット用排水器具	1981/03/01	1991/10/01	JIS A4421	設備ユニット用排水器具	1981/03/01	1991/10/01	
JIS A5207	衛生器具—便器・洗面器類	1953/10/02	2011/01/28	JIS A5207	衛生器具—便器・洗面器類	1953/10/02	2011/01/28	
JIS A5532	浴槽	1970/09/01	2011/01/28	JIS A5532	浴槽	1970/09/01	2011/01/28	
JIS A5712	ガラス繊維強化ポリエステル洗い場付浴槽	1979/01/01	2009/02/20	JIS A5712	ガラス繊維強化ポリエステル洗い場付浴槽	1979/01/01	2009/02/20	
製図方法				製図方法				
JIS A0101	土木製図通則	1958/05/30	2003/05/28	JIS A0101	土木製図通則	1958/05/30	2003/05/28	
JIS A0150	建築製図通則	1958/05/31	1999/07/09	JIS A0150	建築製図通則	1958/05/31	1999/07/09	
JIS B0011-1~3	製図—配管の簡略図示方法	1998/01/20	—	JIS B0011-1~3	製図—配管の簡略図示方法	1998/01/20	—	
SHASE-S001-2005	図示記号	2005	—	SHASE-S001-2005	図示記号	2005	—	
基準等				基準等				
SHASE-S010-2007	空気調和・衛生・設備工事標準仕様書	2007	—	SHASE-S010-2007	空気調和・衛生・設備工事標準仕様書	2007	—	
SHASE-S206-2009	給排水設備基準・同解説	2009	—	SHASE-S206-2009	給排水設備基準・同解説	2009	—	
SHASE-S217-2008	グリース阻集器	2008	—	SHASE-S217-2016	グリース阻集器	2016	—	
<p>JIS：日本工業規格</p> <p>JWWA：日本水道協会規格</p> <p>JSWAS：日本下水道協会規格</p> <p>SHASE：空気調和・衛生工学会規格</p> <p>AS：塩化ビニル管・継手協会規格</p> <p>WSP：日本水道鋼管協会規格</p> <p>JCDA：日本銅センター規格</p>				<p>JIS：日本工業規格</p> <p>JWWA：日本水道協会規格</p> <p>JSWAS：日本下水道協会規格</p> <p>SHASE：空気調和・衛生工学会規格</p> <p>AS：塩化ビニル管・継手協会規格</p> <p>WSP：日本水道鋼管協会規格</p> <p>JCDA：日本銅センター規格</p>				